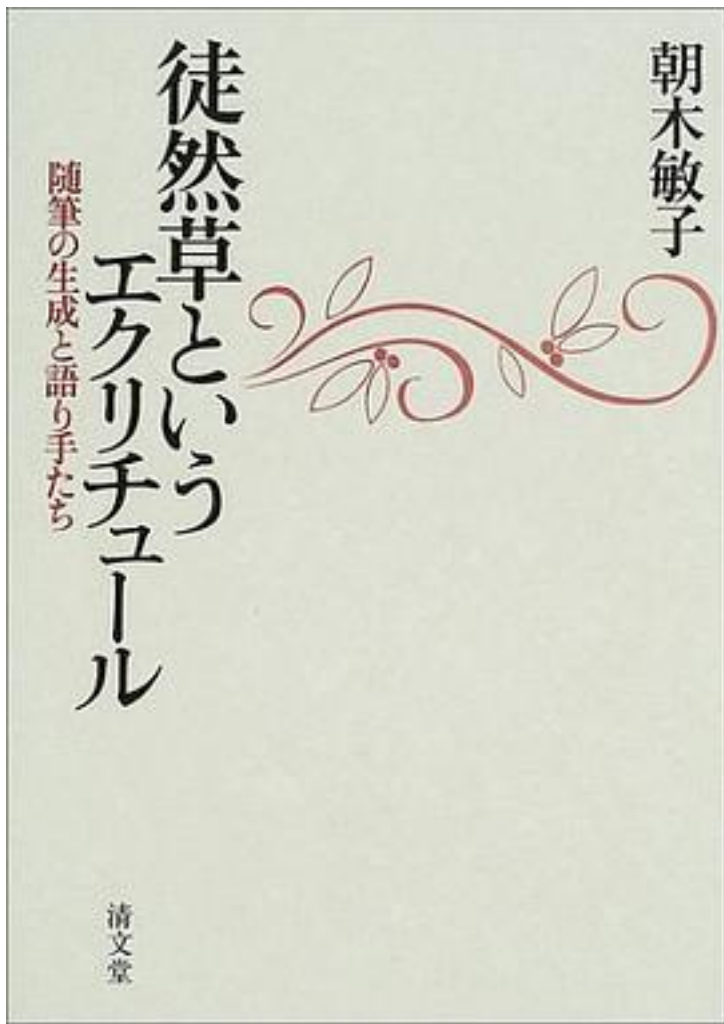


徒然草というエクリチュール



[徒然草というエクリチュール_ダウンロード1](#)

著者:吉田 兼好

出版者:清文堂

出版时间:2003-11

装帧:単行本

isbn:9784792413811

、1330年8月から1331年9月頃にまとめられたとする説が主流であるが、数多くの説

があり定説はない。中年期の兼好が著した事になるが、若い時代に書いた文章も含まれているという説もある。和漢混淆文と、仮名文字が中心の和文が混在している。

序段を含めて244段から成る。兼好が退屈を凌ぐために書いたと言われているが、実際はいかに生きるかを探求する作品。内容は兼好が歌人、古典学者、能書家などであったことを反映し、多岐にわたる。隠者の文学と言われている。

執筆後100年は注目されなかったが、室町中期に僧・正徹が注目。江戸時代には加藤磐斎の『徒然草抄』（1661年、寛文1年）北村季吟の『徒然草文段抄』（1667年、寛文7年）といった注釈書が書かれ、町人などに愛読され江戸期の文化に多大な影響を及ぼした。それだけに写本は江戸時代のものが多く、室町時代のものは非常に少ない。

室町幕府の九州探題である今川貞世(了俊)は吉田兼好の弟子の命松丸とも親交があり、兼好の没後、編纂に関わっているとも言われる。

作者紹介:

（よしだ けんこう、弘安6年(1283年) - 観応元年/正平5年4月8日(1350年5月14日)? ）は、鎌倉時代から南北朝時代の随筆家・歌人である。本名はト部兼好（うらべかねよし／うらべ・の・かねよし）。兼好法師（けんこうほうし）とも呼ばれる。吉田神社に関係があったことから吉田兼好と通称されることが多いが、地名を用いた呼び名のため嫌う学者もいる。没年には文和元年/正平7年（1352年）説もある。

ト部氏は古代よりト占を司り、神祇官を出す神職の家で、兼好の父も吉田神社の神職であった。後宇多院に北面の武士として仕え、従五位下左兵衛佐まで上ったが、上皇の死後、出家して兼好（けんこう）を名乗った。鎌倉に2回は訪問滞在したことが知られ、鎌倉幕府の御家人で後に執権となる金沢貞顕と親しくしている。その時、現在の神奈川県横浜市金沢区の上行寺内に庵があったと伝えられる。

鎌倉時代から南北朝時代にかけて歌人として活躍した。『徒然草』は自然の風物などが散文として書かれ日本の三大随筆に数えられ、また当時の社会風潮などを知るための資料にもなっている。『続千載集』・『続後拾遺集』などに和歌合計18首が収められており、二条家和歌四天王の一人にも数えられている。

室町幕府の九州探題である今川貞世（了俊）とも文学を通じて親交があった。また晩年は、当時の足利氏の執事、高師直に接近したとされ、『太平記』に、その恋文を代筆したとの記述がある。

目録:

[徒然草というエクリチュール_ダウンロード1](#)

标签

吉田兼好

日本古典文学

日本語

日本

文学研究相关

文学

评论

[徒然草というエクリチュール 下载链接1](#)

书评

周作人在文章里屡屡称赏的《徒然草》，日本南北朝时期的代表作，今年四月大陆出了新译本。五月回上海时匆匆购得，直到八月，才有闲暇一页页细读。“清凉彻悟之书”，腰封如是说。也好，我想，且作消夏的书。我对随笔的偏好，甚至超过小说和诗。我读小说有个毛病，就是按捺不...

1.极少有男子能及时而得体地回答女子的发问。龟山院在位时，有好戏谑的宫女问上朝来的青年官员：“听过杜鹃的叫声吗？”一位大纳言回答说：“以区区之孤陋，哪曾听过。”而堀川内大臣则回答说：“在岩仓似乎听到过。”于是诸宫女评点道：“这样回答还不错。所谓‘区区之孤陋’ ...

上个月买了这本译者署名文东的《徒然草》后，一看，是大白话，因个人认为大白话的译文失去了古典散文的韵味，所以便去网上找了王以铸的80年代文言老译本来看。结果，两本书一对比，发现文东的所谓译本，其实就是篡改王以铸的译本！！他只是把王以铸原先的文言译文，变成大白话...

■序段 つれづれなるまゝに、日くらし、硯(スズリ)にむかひて、心に移りゆくよしなし事(ゴト)を、そこはかたなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。
■第一段 いでや、この世に生れては、願はしかるべき事こそ多(オホ)かんめれ。
御門(ミカド)の御位(オホンク)...

读吉田兼好的《徒然草》，每每有会心处。且不论它引经据典时，常有论、孟、庄、易中我们耳熟能详的章句，即在它所讥刺的纷纭世象，它所推崇的日常趣味里面，喜欢读明清笔记的人，也会看到不少似曾相识之处，要为之一颌首、一莞尔。比如它对“观贺茂祭”众人诸相的描写，就让人...

在手上这本簇新的《徒然草》塑料封皮被我粗鲁地扒下来以前，身边一个颇有道行的哥们只瞄了一眼，比较淡定地说，哟，可以啊，现在黄毛丫头都流行看这个？这可是人家日本的道德经！这话让我着实淡不定了，封皮也不扒了，随手撂在了沙发深处，意图等我道德出了问题再来深造不迟...

对于习惯望文生义的人，《徒然草》的书名容易产生歧义。译者文东说，“徒然”日文中原本的意思是“无聊”，最早将此书翻译到中国的周作人则译为“无聊赖”。书名取自卷首语：“无聊之日，枯坐砚前，心中不免杂想纷呈，乃随手写来；其间似有不近常理者，视为怪谈可也”。“草子...

《徒然草》是日本南北朝时代的代表文学作品，著者吉田兼好，是一位出家的法师，所生活年代在十五世纪，相当于中国的元朝时期，被称为日本古今最好的随笔作家。徒然草，取日文无聊赖之意，是吉田兼好悟得的人生真谛。该书汲取古代诸家的学问精华，而融会贯通于一堂，句句清凉的...

●子非鱼兮

“徒然草”这名字看了着实让人欢喜，有种凄然的颓废，著者兼好法师，俗名卜部兼好，通称吉田兼好，是日本南北朝代的和尚（约相当于我国元代），初为武士，后失势出家，在“意日无聊，对砚枯坐，心境之中，琐事纷现，漫然书之”的情...

没有物哀的过度凄清，也不赋出世的谆谆训诫。兼好法师或长或短的即兴篇章是淡泊开明的，一点点幽默与反讽也完全不见出家人的清高。人心是不待风吹而自落的花。遥想至今多少朝代更替，几多物换星移，这样一本精炼坦然的书却依然在细微之处灌溉到了世人的心智。从某个角度而言...

如果“徒然草”做为上联，下联的文字我看可以是“夕颜花”——这当然是句玩笑话，“草”是草纸，同“物语”类似，是文体之一种，不能拿来效仿香菱做斗百草游戏。《徒然草》中有提到夕颜花的地方，是在第23页：“六月里，穷人家的墙根开满了白色的夕颜花，”这让人想起《源氏物...

文/栗一白

当《天空之城》的音乐响起，当《枕草子》的芳香还在，加之《徒然草》的温润，觉得生活之美，沁人心脾了。日本的音乐和文学在某一刻相遇时，会让你有如水的包围，漂浮而舒展。

吉田兼好在《徒然草》里漫然书之，读者随手看之，随翻随停，随接随续，并不觉缺失，也无时...

人生如一趟没有返程的旅途。初则欢喜，左顾右盼，新奇不已。继则心生疲倦，无所用心。行不半程，便颓然无味，再美的景色也熟视无睹。匆匆的行旅，落寞的人间，所见多是不完美的遗憾人生。人生原本应更美好，如果能够边走边悟。六百年前的日本兼好法师留给世人一部《徒然草》，...

《徒然草》是吉田兼好的遗文，一本自称无用的书。六百多年前法师无所事事，终日枯坐砚前，信笔写下了这些浮动心中的琐事，虽然浮生逆旅，读起来也有盎然的生趣。长满苔藓的小径、虫声起伏的田野、友人在世时赠送的手迹、佳人隐居处弥漫的熏香，如此种种，清凉如泉，又泓有...

这几日心情烦躁，读吉田兼好《徒然草》，颇多沉静之意，略可缓解。兼好本是法师，

所作文字自然蕴含禅意，格调清新，令人心情爽朗。
总的来说兼好法师奉劝人们要放弃心中贪炽，以恬淡的态度对待生活。“抱着从容恬淡的心态过日子，一年都显得漫长无尽；抱着贪婪执着的心态过日...

2012年的一天，老师随口问我：“看什么书呢？” “《徒然草》。”
“啊？那个日本六百年前的佛法随笔？”他皱起眉头，“小孩子不要看那种书，他在宣传一种……厌世的佛教思想。”
那么，这是一本古老、枯涩的书了。可是你知道吗？再久远的年代、再蛮荒的地方，人的心都可以一...

吉田兼好是个奇怪的和尚
徒然草把无聊二字讲的清澈见底，世上大部分的人都深深浅浅地了解无聊是怎么一回事，少部分人或许还很精通，但是他却能把无聊和虚空赋予一些形式和格调，感叹号和语气词，装饰精良，真实可触，媲美李义山留得残荷听雨声的形式感。
人是要死的，而世间事...

吉田兼好，一个自言自语神叨叨的话痨文青，物哀禅思，妙趣丛生，时不时让你会心一笑。读到有些片段，他现场说法而众人闻言恍然大悟，我会觉得这些或许只是存在于他的幻想之中而当时他只木然于现场。
特别有意思的是，说到女色——“男子不应有妻。我每听人说“我一向独居”，就...

[徒然草というエクリチュール_下载链接1](#)